

ト★ 東星学園だより

TOSEI

東京都清瀬市梅園 3-14-47 TEL 042-493-3201 <http://www.tosei.ed.jp>

□ 西武池袋線秋津駅 南口 徒歩 10分 □ JR 武蔵野線新秋津駅 徒歩 15分

vol. 27

「踏んだこの足は痛か。痛かよオ。」

校長 大矢正則

5月のある日、急な時間割変更で普段は教えていない小学校6年生の『宗教』の授業をすることになりました。その日のテーマは『隠れキリシタン』。普段担当している先生からは、短い2本の動画(内容は天草と五島列島についての紹介。2本で8分)を見せ、後は「フリー」で話してほしいと伝達されました。1時間目だったので、ほぼ準備時間はなかったのですが、追加でNHK for Schoolにアップされていた『キリシタン大名』と、2017年に公開された映画『沈黙』のtrailer映像(どちらも2分強)を検索して、見てもらいました。

短い映像を4本見ながら、その後の授業展開を考えました。発問と想定されるディスカッションのシミュレーションを頭の中でしたわけです。週1回しかない『宗教』の授業。カトリック学校で最も大切な授業。質の高い授業が求められています。発問内容は、①このころの日本はなぜキリスト教禁教政策をとったと思うか? ②当時のキリスト教徒たちの中には、自分の信仰を捨てずに殉教した人もいたのはなぜだと思うか? ③あなた自身が何か一つの宗教を信じていたと仮定して、あなたは、その宗教の神などを描いた絵(踏絵)を踏めますか? 児童たちからは、①については「外国の宗教だから」「日本にとって都合が悪かったから」など。②については「周りの人も踏絵を踏まなかったから」など。③については、「踏む、踏む。形式的に」などの意見が出ました。

そして、今回の授業をまとめる意味で、最後に遠藤周作の小説『沈黙』を題材に話をしました。6年生の段階では、この小説は難しすぎるので、深入りせず(とはいっても十分深い話になりましたが)、一箇所だけ取り上げ、その場面について考えました。その場面とは、パードレ(神父様のこと)が踏絵を踏む場面です。6年生には、こう問いかけました。「『沈黙』という小

説は、キリスト教徒たちが自分たちの信仰を守り抜くために踏絵も踏まず殉教する人さえ次々と出たにも関わらず、神さまはなぜ沈黙のままだったのかということがテーマです。しかし、この小説をよく読むと神さまは沈黙していませんでした。さて、神さまは、踏絵を踏もう、あるいは、踏むまいと苦しんでいた人たちに何と語りかけたでしょうか。

小説も読んでいないのに難しい問いでしたが、冒頭の4本の動画から児童たちは想像力を発揮し、いくつかの意見が出た後、遠藤が小説の中で綴っていることと、ほぼ同じ内容の答えが出ました。その答えは、これから『沈黙』を読む人のために、ここには書かないでおきます。

さて私は小説『沈黙』を大学1年生のときに読みました。洗礼を受ける前です。今でもそのときの新潮文庫が手元にあります。その146頁にはしるしがついてあります。踏絵を踏んで棄教した男性の台詞です。

「俺にゃあ俺の言い分があつと。踏絵ば踏んだ者には、踏んだ者の言い分があつと。踏絵をば俺が悦んで踏んだとでも思っとつと。踏んだこの足は痛か。痛かよオ。俺を弱か者に生まれさせておきながら、強か者の真似ばせるとデウス(神)さまは仰せ出させる。それは、無理無法と言うもんじゃい」。

この男性は、キチジローという名前が登場してきます。キチジローは仲間たちが殉教する中にあって真っ先に踏絵を踏みます。裏切り者、卑怯者、弱虫という役割設定です。キチジローは人々から馬鹿にされ、また、自分でも自分が大嫌いでした。愛せませんでした。しかし、遠藤の描いたキチジローの内面描写は多くの読者の心のひだに触れます。なぜでしょう。その理由は、人が誰でも内面に弱さを持っているからでしょう。

神さまはその人の弱さをも含めて、まるごと愛してくださいませ。ましてやキチジローのように自分に負い目があるのだとすれば殊更です。

多くの人何らかの負い目を抱えて生きている時代です。そこにイエス様は寄り添っていてくださいます。

中学校・高等学校

ガリラヤの風かおる丘で

教頭 長谷部 準子

4月の聖書朝礼では、「ガリラヤの風かおる丘で」を皆で歌いました。歌いながら、2023年の夏休みに、訪れたイスラエルの風景を思い出しました。この旅は、カトリック学校の先生たちとの研修旅行でした。旧約聖書の遺跡や、新約聖書のイエスの訪れた地を巡りながら、たくさんの学びを得た旅行でした。ガリラヤ湖から眺める景色は、建物こそ違いますが、2000年前にイエスが見ていたのと同じ景色なのだと思うと感慨深いものがありました。また、エルサレムでは、十字架へと歩いていったイエスの事を思い浮かべながら過ごしました。幼児洗礼の私は、歴史の教科書に出てくるイエス・キリストと聖書の中のイエス・キリストが一致していませんでした。ある研修で、「史的イエス」という言葉を聞いてから、歴史上のイエスと聖書の中のイエスを結び付けて考えるようになりました。この巡礼研修の旅は、2000年前にこの地で活動されたイエスの出会う旅となりました。帰国後、聖書の中に訪れた地名を見つけると、懐かしい気持ちになります。この歌も、旅の途中でバスの中やミサの際に皆で歌いました。講堂でみんなと一緒に歌っていると、ガリラヤ湖の景色が思い浮かびました。この旅の時には、まさかその一か月後にパレスチナとの間で戦争が勃発するとは思っていませんでした。1日も早く平和が訪れますようにと祈ります。理不尽な中で多くの人々が殺されてしまうのが戦争です。こうした事が無くなることを祈りつつ、まずは身近なところでの平和を築いて

いきたいと考えています。クラスメートや先輩・後輩とのかかわり方は大丈夫でしょうか。軽い気持ちでの行動が相手に嫌な思いをさせていることはありませんか。お互いが相手を尊重する気持ちを持って行動するようにしていくこと、「柔らかで棘のない言葉」を使うように心がける事を大事にしていく1年としていきましょう。

2024年度、もう一つ大事にしてほしいのは、『災害被災者のための祈り』を心を込めて祈ることです。お正月に発生した能登半島地震は、甚大な被害をもたらしています。ヨゼフ祭後の連休を利用して、カリタスジャパンの援助などで運営されている活動に参加してきました。1日は輪島での活動と視察でした。2021年の高校2年生の学習旅行で金沢と輪島を訪れました。その際に訪ねた輪島の朝市はニュースでご存じの通り、火災で朝市一体焼失しています。この地を歩きながら、当時の様子を思い出しつつ、ここで生活されていた方々の安全を祈らずにはいられませんでした。今年のヨゼフ祭の献金先はカリタスジャパンの能登半島地震支援のためのものでした。実際に、現場に行くと、その様子を目の当たりにした今、これからも長く支援を続けていく必要性を感じています。東星学園高等学校では、毎年福島への被災地ボランティアを実施しています。福島の抱える問題も忘れることができません。日本だけでなく、世界中で起こっている様々な災害や紛争を考えると何か一つだけを支援することに決めるのは難しいのかもしれない。だからこそ、東星学園として、どこに重点を置いて支援していくのか考えていくことが大切になります。なかなかかかけていくことは難しいけれど、思いを寄せて祈ることはできます。どうかこれからも11日に行う『災害被災者のための祈り』を大事に祈ってください。そして、今の私たちにできる事を考えながら行動していくようにしましょう。

入学式

入学式企画委員長 高等部3年2組 I・K

今年は春の開花が遅れ、入学式の頃につぼみがふくらみ始めました。当日は春の嵐となりましたが、会場は明るい雰囲気の中で第60回入学式が行われました。

中高生の入学式は高校3年生の企画委員を中心に作っていきます。今年は入学式のテーマを「祝福」としました。新入生たちの入学を祝福し、また私たちの新しい仲間の上に神さまの祝福がたくさんありますようにという祈りを込めました。

入学式にむけては、コサージュ選び、手紙の文章の作成、会場図作成とたくさん準備することがありました。一番大変だったのは全体合唱の練習です。入学式

としては久しぶりに歌を歌えることになったのですが、入学式にふさわしい曲がなかなか見つかりませんでした。選んだ「RPG」も難しい曲で練習も苦労しましたが、当日は会場の多くの人に一緒に歌ってもらい良い締めくくりとなりました。

私は企画委員になるのも、何かの委員長になるのも初めてだったので、新入生たちにとって初めての授業である入学式がうまく取り仕切れるか不安もありました。しかし、企画委員の仲間たちや先生、放送委員や草月流講座の皆さん、そして同級生である高校3年生の協力もあり、何とか入学式を無事終えることができました。

入学式で新入生たちは希望に満ちた未来への第一歩を踏み出しました。彼らの新たな旅立ちを見守り、祝福できたことを嬉しく思っています。

「目一杯の祝福を君に」

英語劇を終えて

英語劇企画委員長 中等部2年 S・E

昨年の夏休み明けから始動した企画委員会では、演目を「となりのトトロ」とし、テーマを Endless Creativity としました。

英語劇で初めてのジブリ作品ということで楽しみな反面、とても不安なスタートとなりました。脚本作りから配役、大道具、小道具、衣装、音響、照明に至るまで話し合いをし、一つひとつ作り上げていきました。



私たちの学年は二十四人と少なく、複数の役割を兼任する人もいました。また新しい試みだったため、衣装も大道具も小道具も一から作る必要があり、作業工程が多くなりました。特に空想上の生き物であるトトロとネコバス、まっくろくろすけを具現化することがとても大変でした。そこで、みんなでアイデアを出し合って試行錯誤を繰り返しました。その甲斐あって、より良いものを作り上げることができたと思います。

今回の英語劇のテーマである Endless Creativity には、「無限大の創造力」という意味があります。私たちには、私たちにしかできない独自の感性があることを信じて、今まで一生懸命練習してきました。答えが一つだけと決められていない、この英語劇にみんなで向き合って私たちなりの答えを見つけさせたのではないかと思います。

この英語劇を通して、一人ひとりが力を合わせて一つのことに取り組む大切さを学ぶことができました。最後に、この英語劇に携わってくださった先生方、温かく見守ってくれた家族、アドバイスを沢山くださった先輩方のおかげでここまでやっていくことができました。心から感謝いたします。そしてこれまで一緒に頑張ってくれた中等部二年のみんなありがとう！

高2 劇「不思議の国のアリス」

企画委員長 高等部2年 S・J

私たち 59 期は劇の演目に「不思議の国のアリス」を選びました。私たちの学年は人数も少なく、冬に海外留学へ行く者が複数いたため、例年通り劇が行えるのかわからず、この学年で劇をやるのかどうかという話し合いからスタートをしました。しかし、昨年の先輩方の劇を観て、自分たちもこのような劇を創り上げたい、自分たちにしか創れない劇を披露したいという一人ひとりの思いから劇を行うことにしました。

この劇は私たちにとって初めて一つのものを最初から共に創り上げていくものでした。初めはやる気や戸惑い、不安など様々な感情が入り混ざった状態でした。有名な作品だからこそ、私たちらしさをどう表現していくのか、多くの人が楽しめる劇にするためにはどうすべきか等、たくさん話し合いました。ときには衝突もありました。お互い同じ目標へ向かっているはずなのに、考え方等の違いで言い合いになってしまうこともありましたが、また、限られた時間の中での練習だっ

たため、不安な気持ちのまま練習が終わってしまうことがほとんどでした。しかし、この劇を成功させたいという思いが私たちの背中を強く押してくれました。私自身1人で悩むことも多かったですが、先生方のアドバイスや仲間たちのあきらめない姿に何度も救われました。本当に感謝しています。今振り返ってみると、悩んだり後悔したりした時間、今まで頑張ってきた練習してきた時間、この全てが大切な時間だったのだと強く感じています。

この劇で学んだ様々なことをこの先の学園生活で活かしていきたいと思っています。



小学校 黙想

教頭 倉本 俊輔

4月より東星学園小学校の教頭職に就きました。倉本俊輔と申します。どうぞよろしくお願いいたします。前年度まで中高部で美術科教員、生活指導部長を務めておりました。移動当初の4月は小学生と中学生との使うことばの違いや距離感に戸惑うことばかりでしたが、「自分の子供達と同じだ!」と考え方を切り替えると自然に児童と関われるようになりました。最近では昼休みの鬼ごっこで汗を流しています。また、新1年生と同じ気持ちで分からないことは先生方に質問攻め

をして、たくさん助けていただき楽しく過ごしています。

さて、中高部でも祈りの時間は多くありま



すが、私が小学校に来て特に新鮮に感じたのは、朝の黙想の時間です。約2分、静かに手を合わせて目を閉じ、アヴェ・マリアの音楽に耳を傾けます。フルートとハーブの音色が心地よく、心が落ち着き、気持ちの良い1日をスタートさせることができます。この黙想を通して、児童も教員も自分自身と自分の中にいる神様と対話することができるので、とても大切な時間になっていると思います。自分のプライベートでも黙想する機会は多く、剣道の稽古の前後には必ず黙想の時間があります。剣道では何のために黙想するかというと心を落ち着かせるため、集中力を高めるため、その日の課題や目標を明確にするためなど様々な意味があります。しかし、考えすぎると心の中がすっきりしないこともあるので、あえて何も考えず、無心に近づけるように意識して黙想するときもあります。私にとっては東星の黙想も剣道での黙想も自己と向き合うという意味で同じ時間です。これからもこの二つの場所での黙想を大切にしていきたいと思っています。

東星学園小学校には朝から元気で明るい挨拶、笑顔で歌う大きな歌声、学校生活の中で子どもたちの生き生きとした姿が沢山あふれています。今後も児童を中心として、保護者と教員とがチームになって関わりを深めてまいりたいと思います。

卒業おめでとう (第88回東星学園小学校卒業式)

元6年担任

3月8日未明から降り始めた雨は次第に雪に変わり、予想よりもだいぶ雪が積りました。第88回東星学園小学校卒業式は開始時刻を遅らせて執り行われました。

東星学園小学校の卒業式は卒業する6年生自身がテーマを決め、プログラムや看板を作るなど、一人一人が役割を持って準備をします。88期生が選んだテーマは「躍動」。力溢れる彼ららしいテーマでした。

思い返してみると、年度がはじまる始業式で元気がみなぎる6年生を見て、子どもたちの熱に負けにくいくらい頑張ろうと心の中で決意したことが、懐かしくも昨日のように感じます。子どもたちにとってみれば、小学校の卒業はこれから未来に躍動していく通過点にすぎないかもしれませんが、名残惜しいと感じている人がどれほどいるかわかりませんが、友達と遊んだこと、喧嘩したこと、先生に褒められたこと、叱られたこと、一生懸命勉強したこと、楽しかったこと、大変だったこと、辛かったこと、嬉しかったこと、何かを得たこと、失ったこと数えきれない経験と想いが、ここ東星学園で彼らを育てていきました。これから彼らは、またひとつ大人に近づき、それ

ぞれの人生を歩み始めますが、どうか東星で過ごした日々を大切にしてほしいと思います。88期生のこれからの幸せを祈っています。卒業おめでとうございます。



にこにこが いっぱい

1年担任

4月の春らしいあたたかな日。

1年生12名の入学式が行われました。制服を着て、緊張気味な様子の子どもたち。6年生が「ご入学おめでとうございます。」と声をかけると、やっと笑顔を見せてくれました。式の中で名前を呼ばれたときには、立派に手を挙げ元気よく返事ができました。

そんな入学式から1ヶ月が経ち、学校生活にもだんだんと慣れてきました。朝、登校してくると、「おはようございます。」と大きな声で挨拶し、黙々と朝の支度を始めます。初めの頃は6年生の力を借りながら、時間をかけてゆっくりやっていました。ですが、今では自分ひとりでもできるようになってきました。

最初の授業では、学校生活でのお約束やルールについて知り、自己紹介や絵本の読み聞かせの中で話し方・聞き方などを学習しました。また、初めて使う教科書に、目をキラキラさせていました。

休み時間には、みんなで仲良く遊ぶ姿が見られます。教室内では、輪投げや魚釣り、ブロックなど、遊び方を工夫しながら楽しんでいます。外遊びでは、フラフープや缶ぽっくり、ホッピングなどで、元気よく体を動

かしています。

給食の時間になると、わくわくいっぱいな様子です。カレーライスやパン、スパゲッティなど、毎日違うメニューに心躍らされます。「とってもおいしい。」と言いながら、幸せそうに食べています。そんな子どもたちを見ていると、こちらまでより一層おいしく感じられるのです。

給食当番の仕事やお掃除にも、一生懸命に取り組んでいます。皆で力を合わせて重たいものを運んだり、教室の隅々まできれいにしたりしています。

さて、これから、どんな毎日が待っているのでしょうか。それはきっと、想像することのできないほど素敵な日々であると思います。にこにこいっぱいな12人の子どもたちと、鮮やかな毎日を描いていきたいです。



ヨゼフ祭 舞台発表

音楽科

昨年度から、ヨゼフ祭はコロナ禍以前の形に戻りました。

今回のプログラム1番は、6年生が器楽合奏で「少年時代」「たんぽぽ」「ゆかいに歩けば」の3曲。プログラム2番は5年生による合唱で「箱根八里」「未来へはばたけ」の2曲を披露しました。

6年生の合奏は先日の卒業式・入学式のそれぞれ入退場で演奏した時の再演です。すでに1回本番を踏んでいるので、余裕を持って演奏できたようです。

以前は卒業式・入学式の合奏は、それぞれの式で演奏したら、もうそれで終わりだったのですが、「もう1度演奏を聴きたい」との声が上がり、ヨゼフ祭(旧五月祭)で演奏するようになりました。

もう20年以上前から舞台発表に参加するようになって、今に至っています。

5年生の合唱は、これも始まって16年ほど経ちます。

毎回2曲歌うのが定番となっていますが、新年度になって新しい歌を舞台発表で歌うとなると授業時数が少なく、余裕を持って歌えませんので、少なくとも4年生の時までに歌ったことのある歌を用意することに

なります。「箱根八里」は毎年のように4年生の秋頃に授業で習い覚えている歌で、今回のこの曲での発表は初めてのことでした。

このようにして、ヨゼフ祭にて6年生が器楽合奏、5年生が合唱の発表を行うことによって、同時に中高生のヨゼフ祭への取り組みを学ぶことができます。

来年はどんな曲を合奏するか、また、どんな歌を歌ってもらうかは、まだ考えていませんが、5年生、6年生の発表を通じて、改めて学年のつながりは大切なもの、という事を感じています。

小学校音楽室にはヨゼフ祭で過去に発表した動画がいくつか残っていて、現存する一番古い発表の様子は、確か2003年に発表した6年生の器楽合奏だったと思います。

ビデオテープで録画してあるもので、映像はさすがに少し古さを感じますが、よく小学生に見せることができます。

やはり卒業式や入学式で演奏したものが再演されていて、その頃の映像を見ながら、当時のことも思い出されます。

この発表を通して、東星の音楽が、もっとたくさんの方々には聴いていただけるように尽くしていきたいです。

幼稚園

育て合い、育ち合い、支え合い、

園長 堀田しのぶ

2024年度、いよいよ東星学園幼稚園の最後の1年です。園児8名、教諭2名、事務職員1名、預かり保育職員1名でスタートしました。令和の時代にはたいへんな子沢山ですが、昭和初期の時代なら一般的な家族といえなくもない規模です。今年度の保育は、年間の計画、毎月毎日の計画は今までと同じように、寧ろこの規模になるからこそ昨年度から綿密に計画を立ててスタートしました。兄弟姉妹のようにお互いのことをよくわかり合い、何でも言い合い、話し合い、小さなケンカを繰り返しながらも笑顔の絶えない毎日を送っています。

園内の押し入れに代々保管してきた古いアルバムがあります。春休み中に出して確認してみました。すべてのアルバムを立てて並べると畳1帖が埋まるくらいの量になりました。最も古いアルバムは1951年のもの。白黒写真を貼ったものが2～3冊。1965年頃からは印刷の卒園アルバムと行事のスナップ写真を貼ったアルバムがそろっています。服装や髪型から時代を感じますが、園服を着て写る子ども達の笑顔は今と変わらず、行事の様子、手を合わせて祈る姿など今も昔も本当に変わらないと感じます。



開園(1940年)から10年経った頃 1950年代

時代が変わり、幼稚園教育要領も改定を繰り返し、保育内容は当然変化しています。現在は「自立した子どもを育てる」ことを目標に、「やってみよう!」「できた!」の経験を積み重ねて子どもがのびのびと生きていく力を育てている生活しています。1年前のここに「大切なあと2年」というタイトルで文章を書きました。その中に『子ども達のいつもの毎日は、いつも新しいことの連続で、その積み重ねで子ども達は育ちあっています。子ども達がのびのびとやりたいことを形にできれば、キラキラ輝く2年になることは間違いありません。私た

ちは子ども達の「今」を見る目を信じて、支えていくだけです。』とあります。今、その時のその思いに間違いはなかったと実感しています。私たちは計画を立てていますが、それは日々子ども達とのやりとりによって修正されています。端午の節句に因んで折り紙で鯉のぼり作りをしましたが、「竿につけたい」、「竿は何で作ろうか」、「紙を細く丸めればいいよ」、「兜も作りたい」、「新聞紙で作れば被れるよ」、と折り紙をしながら制作のアイデアが次々と出てきて、時間の使い方を変更したり、急遽材料を用意したりして、子ども達が満足のいく端午の節句の飾りができました。みんなで考えたことが形になっていると子ども達は意識していないでしょう。みんなで考えたようにやってみて、うまくいくこともあればいかないこともあるけれど、誰かの言葉で救われたり、うまくカバーできなくてもそれをみんなで共有して受け流したり、そんな日々の積み重ねこそが何よりも尊い糧。それが尊く何よりも楽しいことだと子ども達は体で感じています。園外保育やお泊り保育など、大きい行事も計画していますが、それは毎日の積み重ねがあるからこそ生きてくるものです。そして、現在の幼稚園の中に流れる空気は創立当初から受け継がれたもの。古いアルバムの中に写っている子どもや教員と会ったことはないけれど、確かに自分とつながっていることを感じます。保育内容は変わっても、「東星学園の教育を貫く精神は、キリストの愛の精神であり、人間の価値とその使命を尊ぶことである」というフロジャク神父様の思いはここで毎日生活する幼稚園の子ども達にもしっかりと染み込んで受け継がれてきていることを感じるのです。毎日まさにお互いを大切に育て合っている子ども達。8人の兄弟姉妹と4人の大人達、12人の大家族のような幼稚園ですが、8人の園児の保護者の皆様には幼稚園のことを本当に大切にしてください、いつも温かく支えていただいています。およそ30人の大大大家族。みんなで育て合い、育ち合い、支え合い、守られている気持ちです。最後の日まで時間を惜しんで子ども達と保護者の皆様と楽しい時間を共有していきます。今年度もどうぞよろしく願いいたします。



左：1985年
(現園舎に建替え)



右：2024年度の
園児と教職員

園服は夏冬共に今も変わりません

『混合生物は2匹を合わせる
くらいで丁度良い』 どうせいキッズ

まだまだナゾが多い、不思議なキマイラ!!

カモノハシ

カモノハシのクチバシにビーバーの体と
なんとも不思議な生き物!!

クリエイションズ、ナイトメア
『創造論者の悪夢』って
異名まである。

生きた化石と
呼ばれてる系で
1500万年前は
体長が
1メートル以上
もあったらしい。
ちなみに英語名
はPlatypus.

意味は「平らな足」(そこ?)



← ゴムの
ようにやわ
らかい。

ウイ
アナ
〜バ

← ぶ厚くて防木も
バッチリな毛皮。

← 泳ぐのに
使ったり
巣の材料を
運んだり。

今年色々勝負を決め
たいと思っているからーです。
人は大人になるにつれて
環境に適応するために
別の自分を作ったりして、心を
整える。ある意味防衛手段
を作ったりします。子ども達
も学校の顔、家の顔を使
い分け、お父さんお母さんや
先生も色々な顔を使い
日々、日常や人生と向き
合い、各々自分自身の
紆余曲折を作り上げて
いると思います。そんな中
2つの別々の生き方をした
個体がまるで一つになった
生き物が今回の
お話です。

カモノハシのすごさその1

産卵 なんと哺乳類で
ほぼ唯一タマゴを産む!!
肛門・生殖器・尿道が
全部、同じ穴にあるのだ!!
(タマゴもココからやで)
ちなみにタマゴは100円玉
より小さいぞよ!!

その2 電気定位

エレクトロロケーション!!
クチバシに密集した約4万コ
の電気センサーでエモノが
出す生体電流をサーチ
するのだ!! たとえ暗い水の
中でも魚を食べられちゃう!!

その3 毒針

オスだけ後3足に毒針を
隠しもつ!! マムシ毒と同じ
カテゴリーに属する強かな
出血毒である。犬くらい
なら軽く死んじゃうぞ!!
かわいくておそろしい
カモノハシでした。

広 報

本学園の広報活動についてお知らせいたします。

中学校説明会：6月29日(土)
9月23日(月・振替休日)
高校説明会：6月29日(土)
9月23日(月・振替休日)

【小学校】

第2回学校説明会：6月22日(土)
夏休みイベント：8月3日(土)
第3回学校説明会：9月7日(土)

小学校、中学高等学校の各行事へ参加をご希望の方は、本校HPより事前にご予約をお願いいたします。
一人でも多くの仲間をここ東星に迎えることができますように、今後とも皆さまのご理解とご協力をお願い致します。

【中高部】

公開授業：7月20日(土)
夏の学校見学会：8月1日(木)～9日(金)、
8月19日(月)～23日(金)、
8月28日(水)～30日(金)
※土曜日、日曜日、祝日は除きます。

【贈答品に関するお願い】

本学園(法人・中高・小学校・幼稚園・事務所・保健室・相談室などすべての部署)において、保護者の皆様や、関係者の皆様からの贈答品を受けることを禁止しております。ご理解およびご協力のほど、お願いします。

学園行事予定 (2024年6月～9月)

	中学校・高等学校	小学校	幼稚園
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・衣替え ・前期中間テスト ・スポーツ大会 ・高校GTEC ・学習参観・学級懇談会 ・漢字検定 ・中学・高校学校説明会 	<ul style="list-style-type: none"> ・衣替え ・1・2年生遠足 ・ひこうき大会 ・第2回学校説明会 	<ul style="list-style-type: none"> ・お誕生会 ・同窓会(小1～小3) ・プール開き
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・合唱祭 ・高2大学進学博 ・芸術鑑賞会 ・終業日 ・夏期講習 ・被災地ボランティア 	<ul style="list-style-type: none"> ・1～6年生懇談会 ・東星中説明会 ・音楽会 ・4・5・6年生音楽鑑賞 ・終業日 ・6年生修学旅行 ・4・5年生夏期学校 	<ul style="list-style-type: none"> ・終業式 ・お泊まり会
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・夏の学校見学 ・数学検定 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みイベント 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏期保育 ・お誕生会
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・始業日 ・前期期末テスト ・中高等学校説明会 ・前期終業式 	<ul style="list-style-type: none"> ・始業の集い ・引き取り訓練 ・第3回学校説明会 ・1年生幼稚園交流会 ・児童会役員選挙 ・前期終業式 	<ul style="list-style-type: none"> ・始業式 ・身体測定 ・防災訓練 ・1年生幼稚園交流会



編集後記

青葉が香り、初夏の風が吹く季節となりました。ヨゼフ祭や写生大会、運動会と行事の中で生徒たちの輝く笑顔が見られる瞬間が楽しみでなりません。笑顔いっぱいのあたたかな日々を送れるよう、教職員一同サポートして参ります。どうぞよろしくをお願いいたします。

(中高)